

山の恵みをいただいて

# 動く人、変わる地域

皆さんは、地域を活性化するために、真庭市でどんな取り組みが行われているか知っていますか。真庭市は面積の8割を森林が占める地域です。そこにある資源を十分活用しているのでしょうか。今回は地域資源を活用している人と地域を、まにぞうとまにぞうじいじと一緒に紹介していきます。

皆さん、こんにちは  
わしが、まにぞうじいじじゃ



まにぞうのおじいちゃん  
まにぞうじいじ

ぼくのおじいちゃんだよ



真庭市キャラクター  
まにぞう



# 木の新たな需要を生み出す

## 「木の新たな活用を」動き出した木質バイオマス発電事業

真庭市は森林資源がたくさんあって、林業や製材業といった産業が盛んなまち。その中で新たに生まれたのが真庭バイオマス発電所なんだ。地域が協力して木を燃料にして発電する取り組みは、全国から注目を集めているよ。今年4月に動き始めたばかりだけど、今の状況を発電所の坂本多加雄所長に聞いてみよう。



バイオマス発電所の状況(8月末まで)  
実績:売電金額 約2億円/月  
バイオマスツアーでの発電所訪問者242人

ツアーや視察の申し込みが絶えない真庭バイオマス発電所

## 安定した発電を 継続していきます



真庭バイオマス発電所所長  
坂本多加雄さん(富尾)

4月に稼働を始めたバイオマス発電所ですが、現在まで順調に運転できていると言えます。当初、稼働率は1年目に70割、2年目に90割、そして3年目に100割での運転になると計画していました。現在は約95割の稼働率となっていていきます。これは、含水率が低く品質の良い燃料チップを受け入れることができています。年15万トのチップが必要と試算していましたが、この推移でいくと今年には12万トほどで発電できるのではないかと思っています。真庭木材事業協同組合には、

予想以上に枝葉や皮が多く集まっているようですが、今まで使われなかったものが使われるようになったことは、非常にいいことだと思っています。発電が開始し、真庭観光連盟が行っている、バイオマスツアーのコースにも入るようになり、多くの方に視察に訪れていただいています。ツアー客も多いですが、それ以上に官公庁の方や、全国各地の木材関係者の視察が多い状況です。市民の皆さんの中には、この事業で山がはげ山になるのではないかと心配している方もおられますが、基本的に材料は、用材にならない物を使っています。発電用の燃料のために木を切っているわけではありませんので、ご理解いただければと思います。

真庭バイオマス集積基地には、1日に約150tの未利用木材が集まっているんじゃない。木材関係者だけではなく、市民も登録すれば持っていくことができるぞ。山から出る木だけではなく、庭木の剪定枝も買い取ってくれる。今まで捨てていたものが、お金に代わっているんじゃない。



真庭バイオマス集積基地第2工場



# 需要を支える森林づくり

## 木を使い切る「里山真庭の森林(もり)づくり推進事業」

真庭市は、これからの木材需要に対応しながら森林整備を進めていくために、森林整備・林業振興のもとになる「森林・林業マスタープラン」を作るんだ。そのために今どんな取り組みをしているのか、林業・バイオマス産業課の野川崇さんに聞いてみよう。

真庭市の森林資源  
・市総面積 82,843ha  
・森林面積 65,638ha 林野率79.2%  
うち国有林面積 6,956ha  
・地域森林計画対象森林面積 58,668ha  
うち人工林面積 33,881ha  
(スギ22%、ヒノキ72%)  
人工林率 57.8%  
・製材所 約30社  
市内の製造業の生産額の1/4を占める



真庭市は今年度、「木を使い切る真庭」の具現化を目指すため「里山真庭の森林(もり)づくり推進事業」に取り組んでいます。その中で、旺盛で多様な木材需要に応え、木材供給力を高めながら、森林整備・環境保全・災害防止の面からもバランスのとれた「森林・林業マスタープラン」を策定します。そのために、住友林業株式会社と委託契約を締結し事業に取り組んでいます。森林・林業マスタープランを策定するため、美甘地区をモデル地区として選定し、精度の高い地形情報、森林資源情報の把握や森林現場・地域の実態調査など5つの重要項目に取り組んでいます。さらに、一部実証実験として、美甘地区の人工林2ヶ所で、タワーヤーダの実証作業を行い、8月28日には研修会を開きました。県内でのタワーヤーダの実証は初めてということで、多くの林業関係者や他市町村から視察に来ていた

## 継続した取り組みが必要です



林業・バイオマス産業課  
の がわ たかし  
野川 崇 主査

きました。木を集めるための効率的な方法を学べたことは有意義だったのではないかと思います。森林を整備するこ

とは、これから先の木材やバイオマス発電所の燃料などの安定供給にもつながります。この取り組みを市内の林業、木材関係者と協力しながら、生かしていきたいと考えています。



# 森林・林業マスタープラン策定に向けた今年度実施する重点項目

## 森林の現況を把握

美甘地区の約5700haを設定し、最新の航空レーザー測量を実施し、詳細な地形や森林資源の状況など、計画策定に必要な基礎データを収集

## ゾーニングの実施

収集した基礎データを用いて、それぞれの森林が有する成長力や利便性、環境保全機能などに注目したゾーニング(空間を用途別に分けて、区別すること)を実施

## 伐採・路網計画の作成

ゾーンごとに森林の取り扱い方法を決め、持続可能な木材供給を行うための具体的な伐採計画や産出された木材を運び出すための最適な路網計画を作成

## 獣害対策

全国で深刻な被害をもたらしているシカの実態調査を行い、林業被害を軽減するための対策を立案

## 木材需要者への聞き取り調査

将来の木材需要動向を見据えた計画を作成するため、地域の木材市場や製材工場など、木材需要者への聞き取り調査を実施

## 森林・林業マスタープラン策定

## 伐出システムの実証 (タワーヤードの実証)

美甘地区の市有林で、コストや生産性を分析するため、住友林業株が所有する、「タワーヤード」を使用して、伐採・搬出作業を実施。実証作業研修会が開催され、多くの関係者が視察に訪れました。

これがタワーヤードじゃ。トラックに集材用のウィンチとワイヤロープを高く張り上げるためのタワーを搭載しているんじゃ。そこから木を吊り上げる機械を取り付けたワイヤーを伸ばし、伐り倒した木を吊り上げて、森林内から道沿いまで集めるための集材機械なんじゃ。最大3tまで吊り上げられるぞ。



タワーヤード実証作業研修会の様子



# 資源を生かしきる 真庭の地域の取り組み



山の恵みを生かした取り組みは、バイオマス発電だけではないんじゃ。ここからは、里山の資源をうまく使った地域の取り組みを紹介しよう。その土地ならではの資源を使ったり、地域で培った経験を生かしたり、その方法はさまざま。身近にあるものを磨いていけば、まだまだできることはあるかもしれんう。





# 生産組合と連携し 特産餅の商品充実と生産拡大

クリエイト菅谷では、美甘地区特産のもち米・ヒメノモチの商品化と販売をしているんだ。生産組合と一体になって進めている取り組みについて、センター長の行藤茂美さんと、美甘ヒメノモチ生産振興協議会の澤本基兄さんに聞いてみよう。



※お餅の写真は昨年のもを使用しています

■注文・問い合わせ先  
クリエイト菅谷  
TEL・FAX 0867-56-2044  
URL: <http://www.sugedani.com/>



## ぜひ一度 食べ比べてみてください



クリエイト菅谷センター長  
行藤 茂美さん(組)

クリエイト菅谷では、5年前から美甘産のヒメノモチを使った商品を作っています。美甘のお餅はおいしいと、少しずつですが口コミで広がってきています。従来販売しているお餅に加え、今年はお米を真空パックにして販売することも計画しています。餅の加工設備が古くなって、受注に対応できるのか不安でしたが、「美甘ヒメノモチ生産拡大事業」の中で、新しい設備を導入することになり、今あ

る設備も使いながら受注に対応できる見通しが付きました。今まで注文いたたくのは、市内と市外が半分の状況でしたが、まずは市内の皆さんに食べてもらいたいですね。私たちは、「おいしい・安い・手を抜かない」をモットーに商品を作っていますが、なんといっても原料のもち米の品質が一番大切です。そのもち米を作っていたら、美甘ヒメノモチ生産振興協議会の皆さんも頑張つて品質のいいもち米を作ってくださっています。今年も美甘産のヒメノモチでおいしいお餅を作ります。皆さんの注文をお待ちしています。

## 品質にこだわった米づくりをしています

美甘ヒメノモチ生産振興協議会では、59人の会員が美甘地域と湯原・蒜山地域の一部で38haヒメノモチを作っています。天候が一番左右されますが、肥料を試しながら「品質が一番」ということをこだわって、質の高いおいしいお米を提供できるように頑張っています。クリエイト菅谷で商品に加工してもらい、多くの人においしいお餅を食べてもらいたいです。今は「真庭産」として出荷されていますが、「美甘産」と言ってもらえるよう知名度を上げていきたいと思ひます。



美甘ヒメノモチ生産振興協議会会長  
澤本基兄さん(鉄山)



# お茶でもっと地域を元気に ペットボトル商品の開発に挑戦

真庭を代表するお茶どころの富原地区では、今年5月にペットボトル商品を開発して発売したんだ。この取り組み「とみはらお茶プロジェクト」について、代表の梶岡泰士さんに聞いてみよう。



■問い合わせ先・申し込み先  
有限会社 寿園  
TEL0867-46-2038  
富原製茶組合  
TEL0867-46-2935  
とみはらお茶プロジェクト事務局  
TEL0867-46-2566



とみはらお茶プロジェクトのメンバーが、太田市長に「とみはら茶」の完成報告に訪問(5/18)



## 富原茶を 飲んでください



とみはらお茶プロジェクト代表  
梶岡 泰士さん(若代)

ペットボトルの「とみはら茶」は、地域の活性化を目的に、昨年の9月から商品化に取り組んでいました。そして、今年4月に寿園・富原製茶組合・NPO法人「とみはらむら」が共同で企画し、「とみはらお茶プロジェクト」が立ち上がりました。10年くらい前から、会議などで出されるお茶が、ペットボトルのものに代わっていったのをきっかけに、私たちもいつかはペットボトルのお茶を作りたいと考えていました。なかなかきつかけをつかめない状況でしたが、地域おこし協力隊の海野さんに協力していただくことで、商品化を前向きに考える

ようになりました。試行錯誤の末、5月に販売できる商品が完成しました。このお茶を初めて飲んだ時、他のお茶よりもおいしいものができたと思えました。なんといっても、無農薬で作った茶葉を無添加で作っているペットボトルのお茶ですからね。それに、一般的なペットボトルのお茶よりもかなり多くの茶葉を使用しうま味を出していますから。この「とみはら茶」をもっと知ってもらって、多くの人に飲んでもらうことが、この富原地域を元気にすることに繋がると思っています。これからもいいお茶を作り続けていきたいと思えます。



# 地域団体の取り組み 新しいメニューに取り入れ提供

ひるぜんワイナリーでは、富原婦人林研クラブと一緒に、身近に生えている野草を使った「薬草カレー」を開発したんだ。どんなカレーなんだろう。シェフの杉村洋美さんと、富原婦人林研クラブ戸田温子さんに聞いてみよう。



■問い合わせ先  
ひるぜんワイナリー  
TEL:0867-66-4424  
URL:<http://hiruzenwine.com>

## からだに優しい カレーです



ひるぜんワイナリー シェフ  
杉村 洋美さん(蒜山下徳山)

富原婦人林研クラブの方から、薬草で何かできないかというお話をいただき、「薬草カレー」を作ることになりました。薬草は、クラブの方たちが採って火を通して軽く味付けして、ペーストにしたものを納品していただいています。それを最終的に私が味付けなどをして、薬草カレーとしてお客さまに提供しています。毎日多くの量は提供できないのですが、健康志向の強い方に

喜ばれているのではないのでしょうか。開発にあたり配慮した点は、「薬草カレー」ということで、薬草の風味をどこまで残すかということです。スパイスを入れ過ぎると風味が消えてしまいますし、入れないと青臭くなってしまうます。試行錯誤はありましたが、程よく薬草の香りが楽しめるカレーに仕上がったのではないのでしょうか。今回お話をいただいて、地域の人と協力して、ひとつのメニューを作ることができたことはうれしく思っています。これからも地元で採れた食材を中心にしたメニューを考えていきたいと思っています。

## 野草の魅力のカレーに

富原婦人林研クラブは、身近に生えている野草が体にいいということを知り、その時期しか採れない野草を使った、薬草料理教室などを開催しています。今回、ひるぜんワイナリーさんのところに野草で作った「薬草カレー」を提案したところ、おもしろいということでお店で提供していただくことになりました。カレーに使う野草は、クラブのメンバー11人で採りに行っています。草は季節のものなので、これから秋のカレー用の野草を採りたいと思います。 話：戸田温子さん(清谷)



富原婦人林研クラブ活動の様子





# 元気で豊かな地域 循環社会を目指し会社を設立

中和地域では、地域の人が共同で薪を作り、それを燃料として販売して地域でお金が回る仕組みを作っているんだ。今年設立した一般社団法人アシタカの代表理事赤木直人さんに取り組みについて聞いてみよう。



月曜日には地域の人が切りだした木を運んできます

今年の5月、中和地域が20年後も変わらず元気で、豊かな地域であるために、「一般社団法人アシタカ」を設立しました。現在の活動としては、住民が私有林から切り出してきた木材をアシタカが買い取り、薪に加工乾燥し、津黒高原荘の温泉加熱用ボイラの燃料として販売しています。使われていなかった木材がお金に変わり、荒れた山は里山林に戻り、温泉施設はコストダウンと環境貢献という好循環が生まれます。そしてアシタカは住民とのつながりを深めるとともに、決して大きな利益ではありませんが、小さな幸せを分け合っています。6月から始めたこの活動で、現在150立方メートルの木材が集まっています。その木材を薪に加工するために、薪割りをする4人の方に手伝ってもらっています。木を切れない人でもできる仕事をたくさん作り、多くの方に関わっていた



だきたいと思っています。今年、集まった木材を薪ストーブ用燃料やほだ木にして販売するほか、中和地域の素材を使った燻製商品の開発、公民館を活用した旅行商品の開発などを予定しています。その中で、薪づくり同様たくさん小さな仕事も生み出しま

## 皆が少しずつ 幸せになれるように



一般社団法人アシタカ代表理事  
あかぎなおと  
赤木直人さん(蒜山下和)

す。地域の元気が持続するためには、人が移住してこなければなりません。中和地域は水、食料が豊かにあります。エネルギーも山から手に入れています。それらの自給率がさらに高まり、そして小さな仕事でお金もまわる地域となれば、経済的な意味だけでなく本当に豊かな暮らしが実現できると思います。それらに惹かれて若い人も移住していただけるのではないのでしょうか。今、薪の作業場には多くの方がちよっとした雑談をしながら訪れてくださいます。これも「薪」を通じて世代を越えた共通の話題ができたおかげだと思えます。

# 第9回全国水源の里シンポジウム

## 10.20<sup>火</sup>

### 清流が紡ぐ人と人

～農山村と都市の共生を目指して～

12:15開場  
13:00～17:00  
勝山文化センター  
入場無料

ふるさとの自然や文化、伝統を守ってきた誇りある農山村。全国で、このすばらしい資源を磨き上げ持続可能な社会を創ろうとしている。しかし、農山村だけで生き残ることができるのだろうか。清流の流れの先には何かがありそうだ。今なら、きっと未来は拓ける。

- オープニング（会場と中和小学校、岡山理科大学附属高校の3元中継）
- 基調講演 講師 小田切 徳美（明治大学農学部教授）  
演題「見えてきた！農山村再生」
- パネルディスカッション
- 大会アピール

わしもプロモーションビデオで  
真庭市の紹介をするぞ

■問い合わせ先 全国水源の里シンポジウム真庭 実行委員会  
交流定住推進課内 TEL7-42-1179



コーディネーター



小田切 徳美  
明治大学  
農学部教授

パネリスト



中島 浩一郎  
真庭バイオマス  
発電機代表取締役  
(一社)日本  
CLT協会会長



赤木 直人  
一般社団法人  
アシタカ  
代表理事



河上 直美  
NPO法人  
タブララサ  
理事長



太田 昇  
真庭市長



皆さんのお越しを  
お待ちしております

真庭の資源を活かした活動を紹介してきたけど、多くの苦労や努力があつて今の形があるんだね。少しずつ真庭に住む人たちのアイデアで、地域は変わってきていると思うんだ。そんな地域を変えていく、全国規模のシンポジウムが真庭で開かれるのを知っているかな。みんなで参加してみよう。

今こそ変わるとき

